

平成30年度 学校マネジメントシート（年度末）

学校名（ 三重県立川越高等学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 我が校は、広い国際的な視野と自主的創造的な精神を身につけた「自立した学習者」(Independent Learner)を育成し、地域から信頼される進学校としての役割を果たします。
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 利他の心を持ち、行動する心構えと力をもつ、たくましい生徒
	ありたい 教職員像	○ 「文武両道」の活力ある進学校としての実績をさらに向上させ、地域の期待に応えることのできる教職員集団 ○ 個人の資質向上に努めるとともに、組織としての指導力が着実に向上し続ける教職員集団

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒> ほぼすべての生徒が、大学進学を志すとともに、部活動等の様々な活動にもチャレンジし、充実した高校生活を過ごしたいという気持ちを持っている。</p> <p><保護者> 生徒の進路として大学、特に国公立大学への進学を希望しており、安心安全な環境で、学習面をはじめ進路指導の充実を望んでいる。</p> <p><地域> 英語を武器にできるグローバル人材の育成を期待されるとともに、英語教育の先進的な取組の情報発信を求められている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 大学進学に向けた指導を充実させる一方、将来をたくましく生きる力をつけた生徒の育成を図ってほしい。</p> <p><中学校> 川越高校を志望する生徒に対しての情報提供を積極的に行ってほしい。</p> <p><地域・大学> グローバルマインドをもって地域社会を支える人材を育成してほしい。</p>	<p><家庭> 家庭での学習習慣や、基本的な生活習慣を学校と協力して身に付けることができるようにしてほしい。</p> <p><中学校> 川越高校への進学を希望する中学生の要望を学校に伝えてほしい。</p> <p><地域・大学> 外部指導者として高校の授業、特別活動等を支援してほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法について、個々の先生の取組を全体で共有し、協議し、提案していく仕組みづくりが必要である。 ・英語では、4技能をバランス良く取り入れながら、学習・指導方法の改善を進めるとともに、活動を多く取り入れた学習方法に対する生徒自身のマインドセットを促していくことが必要である。 ・学校の改善活動には、教職員重視の観点が大切であり、年度途中に教職員満足度調査を実施して改善活動にいかしてほしい。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学現役合格者は毎年 100 名を超えており、生徒は学習活動に熱心に取り組む姿が見られるが、受動的な姿勢が強く、自立した学習者を育てるための指導の工夫が必要である。 ・総合的な学習の時間を核としてキャリア教育を推進しているが、進路意識の育成や学習習慣の定着を図るため、教育活動全体を通じて学習や進路に対する内発的動機を喚起する取り組みが求められている。 ・命を大切にする教育を推進し、部活動や生徒会活動の充実をはじめ、生徒の自治能力や主体的な行動力、政治的教養の育成、ルール・マナー遵守の指導を充実することが不可欠である。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、生徒の進路希望の実現のための授業や面談、部活動の指導等に日々邁進しているが、生徒・保護者や地域社会のニーズ把握、分掌間の意思疎通が十分でない面があり、学校全体の指導体制を検証して効果的な教育活動を充実していく必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒が主体的に学習活動や部活動に取り組み、夢の実現に向けて継続的に努力するための学習環境づくりを推進する。 ・各教科・学年において生徒の学習状況に応じた効果的な指導方法の研究を深めるとともに、川越高校の指導方法を確立する。 ・国際文理科においては、総合的な学力のレベルアップを図り、グローバル社会をリードする人材育成に取り組む。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒につけたい力を明確化し、教育課程や指導方法を検証して教育活動の質の向上を図るためのカリキュラム・マネジメントを確立する。 ・ICTを活用して生徒・保護者等への積極的な情報発信を行い、生徒や保護者との対話、教員同士の対話を活発に行う体制をつくる。 ・学校運営の在り方について協議する場を定期的に設けるとともに、教職員が意欲的に業務に取り組むために効率の良い組織運営を目指して過重労働の削減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)アクティブ・ラーニング型授業の実践・研究を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。 (2)生徒につけたい力を意識した教科横断的な学習指導のあり方について、各教科・学年が連携して実践・研究を進める。 (3)ICTを活用した効果的な授業づくりに取り組む。 【活動指標】 ・各教科及び教科横断的に行う授業研究。(1・2学期に1週間ずつ実施) ・国事業を活用した研究授業。(AL事業 年2回) ・ICT環境整備とICT活用事例の情報共有。(全職員) ・クラウドシステム「クラッシー」を活用した学習支援プラットフォームの構築。(全学年) 【成果指標】 ・授業での対話の中で自らの考えを広げ深めることができたと答えた生徒の割合 90%以上	「川越生につけたい力」を策定、1年全クラスに短焦点型プロジェクトを設置、学校全体で授業改善を推進。 6、11月に1週間ずつ実施 6、11、1月に実施 授業実践だよりの発行 授業等におけるクラッシーの効果的な活用 91.4%(1年 93.9% 2年 90.0% 3年 90.3%)	※ ◎

キャリア教育の充実	<p>(1) 次期学習指導要領が重視する探究学習を位置付け、3年間を見通したキャリア教育についての実践・研究を進める。</p> <p>(2) 教育活動全体を通じて自立した学習者を援助するキャリア教育を行うとともに、1年生については新入試を睨んだポートフォリオの作成に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間を活用した探究活動の検討。(1学年) 「クラッシー」を活用したポートフォリオの作成。(1学年) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来の進路をイメージし、進路意識が向上し、学習習慣が定着したと答えた生徒の割合 90%以上 	<p>探究プロジェクトを充足して検討開始。クラッシーを活用したポートフォリオについては改善を重ねて作成。</p> <p>78.4%(1年 72.5% 2年 73.1% 3年 89.6%)</p>	※
グローバル教育の充実	<p>(1) 先進的な英語教育・国際理解教育を実践するとともに、国際文理科のスタディツアーのプレゼンテーションについて生徒の活動の在り方についての研究を進める。</p> <p>(2) ライティングの指導及び評価方法の研究開発を行い、バランスのとれた4技能の獲得に向けた効果的な授業づくりに取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学・企業等と連携した特別授業の実施。(年5回以上) 国事業を活用した研究授業。(教育課程研究事業 年2回) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> まとまった英文を読み要約したり、英文で自分の考えを書いたりできるようになり、ライティングに対する自信をつけることができたと答えた生徒の割合 75%以上 	<p>国際文理科英語特別授業、シンガポールスタディツアーにおける英語プレゼンの充実。教育課程研究指定事業(英語)における実践研究。国際文理科特別授業研究授業・研究協議会5回実施</p> <p>91.3%(1年普通科 240人中 219人)</p>	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> 生徒につけたい力を意識した授業研究を推進していくためには、各教科の特性に応じて授業実践を充実していくとともに、担当教科や学年だけでなく、学校全体で取り組みの情報共有が不可欠である。 学習支援プラットフォームとしてのクラッシーの活用をさらに広げていくために、学習記録やポートフォリオの作成などについて、担当学年だけでなく学校全体で組織的・計画的に取り組むことが求められる。また、1・2年のうちから進路意識を向上していくために、キャリア教育や探究活動の充実を図る必要がある。 グローバル教育の充実については、国際文理科だけでなく普通科においても重点的に取り組む。 			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員の資質及び組織運営の向上	<p>(1) カリキュラム・マネジメントに関する諸事項を検討する委員会を立ち上げ、ICT活用の取組等について提案する。</p> <p>(2) 校内研修会を活発に行い、ベンチマーキングや外部研修での成果を全職員で共有する。</p> <p>(3) メリハリのある会議の運営を目指すとともに、教員相互の対話を促し学校改革を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメント委員会における検討。(月2~3回) 次期学習指導要領に関連した全体研修会の実施。(年3回) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントに関する諸事項について理解を深めたと回答した教職員の割合 90%以上 	<p>CM(カリキュラム・マネジメント)委員会では教科をこえて授業改善について検討、先進校視察等の情報共有、対話を重視した会議運営の推進。</p> <p>25回実施 3回実施(職員会議・学習指導委員会他)</p> <p>59.0%</p>	◎ ※

<p>地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 生徒・保護者・教職員相互の情報共有を活発に行う。 (2) 挨拶・服装・マナー指導を徹底し、登下校指導、交通安全教育の充実を図る。 (3) 中学生や地域への情報発信を積極的に行う。 【活動指標】 ・「クラッシー」の校内グループ機能の活用。(年間) ・保護者・地域と連携した登下校指導。(年間) ・授業公開の実施。(年2回) ・中学生を対象とした学校見学会の実施。(年1回) ・ホームページによる情報発信。(年間) 【成果指標】 ・子どもの学習状況や学校の様子がよくわかると答えた保護者の割合 90%以上</p>	<p>学習支援・進路情報の提供、防災訓練、交通指導等安心安全重視の指導、学校案内の充実。</p> <p>15回実施 2回実施(6、11月) 1回実施(11月)</p> <p>よくわかる 16.4% ややわかる 55.6%</p>	<p>※</p>
<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p>(1) 業務の整理と効率化を図ることにより、生徒の夢の実現を最大限支援できる組織を実現する。 (2) 教職員の過重労働の解消に取り組み、有給休暇等を取得しやすい環境をつくる。 【活動指標】 ・企画委員会による組織運営の検討。(月2回) ・統一した取組の実施。(一斉退校日月1回、学校閉校日年1回) ・部活動運営方針の策定。(部活動休養日 週1回) ・60分以内に終了する会議の増加。(放課後に実施する会議の85%以上) 【成果指標】 ・時間外労働時間の削減。(一人あたり平均月3時間削減) ・有給休暇取得日数の増加。(一人あたり年1日以上増加) ・月80時間を超える時間外労働者の削減。(2人削減)</p>	<p>ICTの活用による業務の効率化。 有給休暇取得向上に向けた職場環境づくりと積極的な声かけ。</p> <p>18回実施 一斉退校日(月1回) 閉校日(8月13日) 61.9%(4~9月) 90.5%(10~1月)</p> <p>平均月 0.13 時間削減 年 0.27 日増加 増減なし</p>	<p>※</p>
<p>改善課題</p>			
<p>・学校全体でカリキュラム・マネジメントを推進していくために、個々の教職員が具体的な内容を理解するための研修機会を積極的につくる必要がある。 ・保護者や地域の関係機関と連携し、交通ルールやマナーに関する指導を丁寧に行うとともに、生徒・保護者・教職員がSNSの危険性等について理解を深めることが求められている。 ・授業公開や学校見学会に加え、クラブの合同練習など様々な機会を通じて中学校との連携を深めていく。 ・時間外労働時間の削減については、学校全体の働きかけとともに個々の教職員の意識改革が不可欠である。</p>			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドシステム「クラッシー」は新たな教育手法として有効だが、生徒との関係性が希薄にならないようにしていかなければいけない。 ・カリキュラム・マネジメントについて今後どのように取り組んでいくか検討し、従前の教材研究、教科研究の枠組みを変えていく必要がある。 ・過重労働の解消については、労働生産性の意識を持ち、発想を変えて取り組みを進める。60分以内に終了する会議は増加しているが、内容面を検証する必要がある。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度策定した「川越生につけたい力」を踏まえ、学習指導、キャリア教育、グローバル教育等をどのように進めていくかについて具体的な計画を策定し、評価方法を検討することで、教育活動全体の改善につなげる。 ・「クラッシー」の積極的な活用などICT環境のハード・ソフト両面からの充実と、主体的・対話的で質の高い深い学びを引き出す授業改善の推進を一層図る。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組んでいくために、全ての教職員がその必要性を理解し、学年・教科等の縦割りを越えて取り組む。 ・生徒・保護者・地域との連携を重視しながら、組織運営の不断の見直しを行い、過重労働の解消に取り組んでいく。